

野菜



春インゲン栽培

野菜

山下 伸一
下島宮農指導センター
080-1729-1630

		12	1	2	3	4	5	6
作型	露地			○	○			
	ハウス		○	○				

*備考・・・○(播種)、■(収穫期間)

品種…ベストクローブキセラ

本圃の準備…土壌が肥沃で排水・保水性が良く耕土が深い圃場を選定する。

施肥…肥料は有機質肥料か緩効性肥料を用いる。また、追肥については開花時期から着果時期が最も肥料吸収が大きいため開花前5日頃より行う。

施肥量(kg/10a)

	窒素	リン酸	加里
基肥	13	20	13
追肥	10	10	10
合計	23	30	23

畦立て…30cm以上の高畦を作り、露地の場合は地温を上げるために黒マルチを使用する。マルチ被服を行う場合は土壌水分が適湿状態で行う。

播種…畦幅1.5～2m、条間40cm、株間35cmとし、1穴当たり2～3粒播き軽く覆土を行う。

発芽までは極力かん水を控え、不足気味であれば敷きわらを植え穴にかぶせやや土を湿らせる程度にかん水を行う。

*立ち枯れ病予防にタチガレン液剤1000倍を灌注する。

間引き…発芽後本葉2枚が展開した頃に1本に間引きする。間引き後は土寄せを行い株の安定を図る。

灌水…生育初期は乾燥気味になるためこまめに行い、生育が妨げられないようにする。開花時期頃より土壌水分が不足場合のみチューブで天候をみながら4～5日おきに灌水する。必ず晴天日の午前中に行う。

温度管理…・昼間温度適温23～26℃

・夜間温度適温15～17℃

・地温の適温22～23℃

誘引・摘葉…誘引は必ず行い、光線の確保と養分の転流がスムーズに行われるようにする。

混み合う葉や病葉、老化葉は早めに摘葉を行い株の内部に日光を当てる。1度に多くの摘葉を行うと草勢が低下するので注意する。

農業従事者のみなさまへ、ご協力をお願いします

農業用の資材を適正に管理し、
海への流出を防止しましょう!



このままプラスチックごみが増え続けると・・・

2050年には、海洋中に存在するプラスチックの量は、重量ベースで魚の量を超えると推定されています。

●プラスチックの生産量が、毎年5%増加すると推定
●生産量(2015年は3.22億トン)の前3%が海に流出と推定

海洋に流出したプラスチックは、やがてマイクロプラスチックになります

海に流れ着いたプラスチックごみは、紫外線や波の影響で劣化・破砕を繰り返しながら、細かいプラスチック片になります。こうなると、海での回収はほぼ不可能になってしまいます。海洋生態系への影響も懸念されており、世界的な課題となっています。



1. 病害虫防除

	対象病害虫	防除時期	農薬名	希釈倍数	水1000当たり 使用量	使用回数	収穫前使用 可能日数
温州	貯蔵病害	収穫前	ベンレート水和剤 混用	4,000倍	25g	4回以内	前日まで
			ベフラン液剤25	2,000倍	50ml	3回以内	前日まで
	越冬害虫	12/下~1月/中	ハーベストオイル	60倍	1,667ml	—	—
中晩柑	貯蔵病害	収穫前※	ベンレート水和剤 混用	4,000倍	25g	2回以内	前日まで
			ベフラン液剤25	2,000倍	50ml	2回以内	前日まで
			ベフトップジンフロアブル	1,500倍	67ml	2回以内	前日まで

※ベフラン液剤25とベフトップジンフロアブルは同成分を含むため合わせて2回までの使用となります。

2. 葉面散布

○収穫が終わった品種は樹勢回復対策を行いましょ。

資材名	使用倍数	備考
尿素 又は 神協スピリッツ 又は アミノジューシーN14	500倍	いずれかを使用し、収穫後3回以上集中散布を行いましょ。

3. へた落ち防止対策

収穫から長期貯蔵を行う品種では、へた落ち防止の為散布を行いましょ。

また、すでに河内晩柑等でマデックEWを使用された園では使用することができませんのでご注意下さい。

対象品種	農薬名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
かんきつ	マデックEW	2,000倍	20~10日前まで	1回

品質向上へ 花卉栽培講習会

トルコギキョウ部会は10月31日、新和町ハウス団地で栽培講習会を開きました。

同講習会はトルコギキョウの本格的出荷を前に、部会員と共に栽培するパート従業員の意識統一と品質向上に向け毎年この時期に開いています。今回は25名が参加しました。

熊本県職員も交え各ハウスに移動しながら栽培状況を確認。生産者同士やJA指導員と意見を交わしました。JAの吉澤清宮農指導員によると「夏の暑さによる影響がやや出ているが、病害虫はほとんど無く品質は良い。より品質を向上するため、早めの作業を心がけるよう呼びかけていく」と話しました。

JAは2023年度出荷数量105万4千本、販売高1億7045万円を計画しています。



栽培状況を確認する部会員ら

第28回青色申告会通常総会 農業所得向上へ

青色申告会は10月20日天草市で通常総会を開き、会員やJA関係者42人が出席した。22年度事業報告や23年度事業計画など4議案を可決、承認しました。野中幸廣会長は「農業情勢は厳しいが適正な税金を納めることは大事。税務対策をしながら農業所得の向上をめざしていこう」と挨拶。

同会では農業簿記帳及び青色申告の普及を図り、会員の農業経営の改善、合理化を進めることを目的に、各種研修会に取り組む。

総会終了後はインボイス制度、農業者年金、収入保険について研修会をしました。

役員改選による新役員は次の通り

▽会長=野中幸廣 ▽副会長=札元勇起 ▽監事=園田 溢 光崎修一



挨拶する野中会長